松林

～自分でできる　一緒にやれる～

No.14

令和８年　　１１月１１日

校長　　古瀬　義房

松林小学校の特色ある教育活動

松林小学校では、特色ある教育活動として、「わくわくプロジェクト」を行っています。

これは、児童が「わくわく」し、自分が感じたことや思ったことを「表現したい」「やってみたい」「だれかに伝えたい」と、思えるような取り組みを通して、自己肯定感を高め、コミュニケーション能力向上を図る活動です。

① わくわくZOO（プロジェクト）：羽村動物公園との連携事業を通して、「いのちの大切さ」を学びます。
② わくわくスタディー、わくわくボランティア：サマースクール等を通して、地域ボランティアの方との学びの楽しさを味わいます。
③ わくわくフレンド：羽村特別支援学校と共同学習を通して、意見や状況の違う他者と共生する姿勢を育てます。
④ わくわくワーク：まつのこ学級で建築家の方を迎え、木工作活動を通して、自主性や創造性を引き出します。
⑤ わくわくアドベンチャー：プロジェクトアドベンチャージャパンの方の支援を受け、課題解決に向けて、自分で考え、仲間と協力しながら解決する力を養います。
⑥ わくわくアート：絵画から自分の思いを言葉で表出し合い、互いの思いを受け止め認め合う心を培います。
⑦ わくわくスタート：１年生が入学してから学校生活に馴染めるよう、活動支援、補助を行います。
⑧ わくわくデフリンピック：手話を通して、多様な他者と主体的に関わる素地を育成します。
⑨ わくわくスペース：だれでも安心できる居場所「にこにこルーム」「ぽかぽかルーム」を開設しています。

①



羽村市動物公園　園長による「キリンのいろはの話」

②



松林親子サマースクール　「羽村動物公園うらがわツアー」

③



羽村特別支援学校の友達と「パラバルーン」体験

④



わくわくワークで木工作に挑戦！

これらの多様な体験活動により、子供たちのものの見方や考え方が多面的・多角的になっていきます。また、自分の個性や感性を安心して表現することができる場があることで、自分や他者を尊重する気持ちが育まれていきます。

本校の特色ある教育活動の一つである「学校美術館」の取組について、『西の風新聞』に記事が掲載されました。学校ホームページに記事を載せていますので、ぜひ御覧ください。

ニコニコラム

生活指導主任　桐生 砂千夏
特別支援コーディネーター　大根 佳奈

爽やかな秋晴れが広がる一方で、朝晩の冷え込みが日増しに厳しくなる11月となりました。暦の上では「立冬」を迎え、季節はいよいよ冬へと向かっています。2学期も後半を迎えるこの時期は、心と体の両面で「見直し」と「整え」が必要な季節です。今月も安全で快適な学校生活が送れるよう、教職員一同努めてまいります。

11月の生活目標

【生活】ていねいな言葉づかいをしよう。
【安全】清掃中の避難の仕方を知ろう。

11月は「ふれあい月間」です。6月のあいさつ運動に続き、代表委員会を中心に「いじめ防止」に力を入れた取組を行っていきます。また、各クラスでも道徳の授業を要とした「いじめ防止」に関する授業を実施します。子供たちと共に「いじめ」について一緒に考える機会にしていきたいと思います。

【早めのライト点灯と交通安全】

11月は日暮れが急速に早くなる時期です。夕方暗くなる前の「夕暮れ時」は、自己が最も発生しやすい時間帯です。以下のポイントを意識して生活できるよう、御家庭でも話題にしてみてください。

★自転車のライトは早めに点灯：まだ明るいと感じるうちからライトをつけ、周囲に自分の存在を知らせましょう。
★反射材の活用：夕暮れ時にも安全に歩けるよう、かばんや靴、服に反射材を取り付けることが効果的です。
★歩きスマホや自転車での並進の禁止：視野が狭くなる暗闇では、より一層の注意が必要です。

【心の健康と「言葉の温かさ」】

寒さが増すと、知らず知らずのうちに体に力が入り、心も縮こまりがちです。こんな時期だからこそ「温かい言葉」を意識してみませんか。学校でも次のような温かい言葉を掛け合うことを意識していきます。

★朝の元気な「おはよう」の一言
★困っている友達への「大丈夫？」という気遣い
★お互いの頑張りを認め合う感謝の言葉



【お互いの負担を減らす　小さな工夫】

運動会・音楽会と、大きな行事が続く中、御家庭でのお子さんの様子はいかがでしょうか。「いつもより落ち着かないな」「少し疲れが見えるな」など、日々見守られる中での思いも様々かと思います。いつもと違う状況は、子供達だけでなく、日々の対応をしている大人も大きな負担を感じることがあるかもしれません。今回は、少しでもお互いのストレスを少なくする、御家庭での「声掛け」や「環境づくり」に役立つヒントを一つご紹介します。

日常の中で「早くしなさい」「ちゃんと片付けなさい」と伝えても、なかなか子供に届かないことはありませんか？実は、「具体的に伝える」ことと「視覚化する」ことで、子供はぐっと行動しやすくなります。

◎言葉は短く、具体的に：「ちゃんと片付けて」よりも「おもちゃをこの箱に入れてね」と行動を具体的に伝えます。
◎見通しをもたせる：「後でやるよ」ではなく、「時計の長い針が『6』になったら始めるよ」と目に見える形で示します。
◎褒め言葉をセットに：出来たときは、「すごいね」だけでなく「時間通りに始められたね」と具体的に褒めると自信につながります。

学校でも、個に応じた声掛けなど、子供たちが安心して学べる環境づくりを進めています。忙しい時期だからこそ、気持ちよく笑顔で過ごせるよう、声掛けの工夫を取り入れてみてください。